

## 門前町

「門の前の町（gate-front town）」という意味である門前町は、重要な神社や寺院の門の付近につくられた町を指す語です。鹽竈神社と志波彦神社のふもとに位置する塩竈の門前町エリアには、この町が最も栄えていた時期の名残りが数多くみられます。

このエリアを歩くと、何百年も続く老舗が目に入ります。その中には 1724 年から酒を製造している浦霞酒造や、1845 年創業の味噌醤油醸造元である太田與八郎商店、1720 年に海産物商として創業し、その後和菓子とお茶の店となった「丹六園」があります。

塩竈は（現在の宮城県を含んでいた）旧仙台藩の重要な港であったため、門前町の通りには、この地を訪れる人々を客とする飲食店や商店、旅館などが軒を連ねていました。現存する建物のひとつは御釜神社のすぐ向かいにあり、大切に保存されているゑびや旅館です。ゑびや旅館は江戸時代（1603-1867）から操業していますが、現在の築 140 年ほどの建物は、明治時代（1868-1912）にもとの建物が火災で焼失した後に建てられました。上の階は週末のみ一般公開されていますが、一階のカフェでは常時ドリンクやスイーツが楽しめます。

何世紀にもわたって愛されてきた数々の老舗に新しい顔ぶれが加わり、門前町は発展し続けています。のぼり旗の並ぶ歩道沿いでは、カフェが訪れる人を出迎え、お菓子や日本酒、かまぼこ（cured surimi fish cake）を売る店は通りを行く人々を塩竈の味覚で誘惑します。